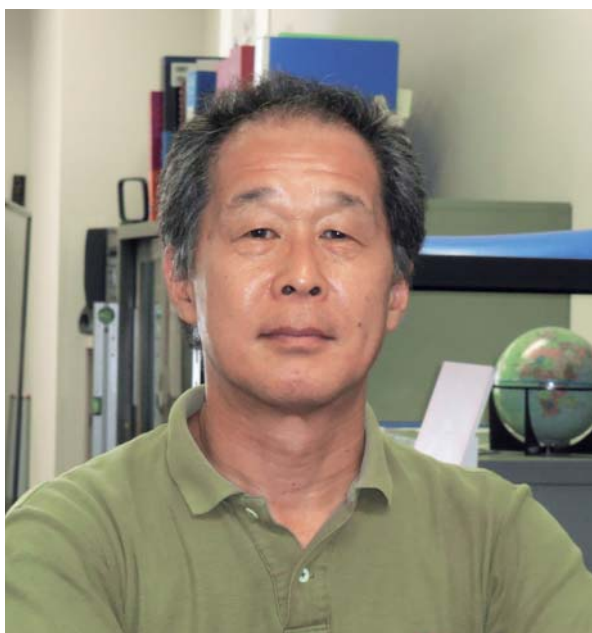


“お気に入り”は清水港、 32歳で起業

インタードメイン株式会社 代表取締役

杉本信策さん

Shinsaku Sugimoto



経歴

静岡市清水区生まれ。県立清水東高校卒業。東京工業大学工学部卒業。1981年、住友商事株式会社入社、パーレン事務所駐在、東京本社勤務を経て、89年、同社退社。同年、インタードメイン株式会社設立、現在に至る。58歳。

この間、90年に小型風力発電機、96年に風況観測装置のそれぞれ販売を開始。県立清水東高校関東同窓会副会長。

<http://www.enecafe.com/>

「体力発電」を開発

8年半勤めた大手総合商社を辞め、32歳の時に起業。風力発電の先駆的存在だ。事業の柱は▽小型風力発電機の設置、販売やエンジニアリング、揚水発電▽風況観測。北海道根室半島に大型の風力発電機2基を建て、小規模ながら発電事業も営む。

取引先の多くは、電力会社系や商社系の売電事業会社。2011、2年、欧米の外

静岡市にゆかりがあり、東京を拠点に内外で活躍する皆様に、東京から見た静岡市の良さと可能性、まちづくりの方向について、ご提案いただきます。

資が参入し始め顧客になっているという。

風況観測の老舗、トップランナーとして新技術を次々投入。商用の風力発電所の建設計画地で四季(1年)を通じてレーザーなどで得た風の観測データを、事業者に提供する。「近年は事業の主力がこちらになっています」と杉本さん。

今、同社が力を入れているのが体力発電。フィットネスマシンに似たエアロバイク型の発電機にまたがってこぐと起こる電気を、コンセントにつないで世の中に供給

する仕組みだ。4年前から開発を進め、ようやく販売できるまでにこぎつけた。当面、スポーツクラブや大学、商業施設などをターゲットに普及を狙う。

「節電のメリットのほか、データベースに取り込まれた発電データを活用して新たなビジネスを展開したいと考えています」と意気込む。

今のままの街でいて

清水で生まれ、育った杉本さんは大の清水港ファン。「富士山はもちろんクレールが立ち、造船所が見える、あの光景が好きですね」。港のふ頭でよく釣りを楽しんだといい、「テロ対策で仕方ないのかもしれないが、できれば昔みたいに自由に釣りができ、市民が親しめる開放的な場所になつてほしいですね。清水港に触れ、良さを知りたいチャンスなですから」。

清水地区のまちづくりについては、「今のままでいいのでは」と、現状維持を主張する。「住環境の良さを壊してほしくない」との思いからだ。「清水という土地柄は何か発展的なことをやろうとしても、乗ってこないところがありますね。現状に集団的に満足しているのだと思います」と分析する。

暗中模索の苦しい日々も経験した。東京でビジネスをする場合の心構えを尋ねると「能力を高めて謙虚な気持ちで、しかし、したたかに」。

(文写真…長田義明)